

	令和4年7月20日(水) 19時00分～21時30分							
会場	ハイブリット開催・会場は市民プラザあくろす2階はばたき、オンライン(ZOOM)参加もあり							
運営委員	会場	壽賀 一仁	ワライ	村上 むつ子	会場	嶋田 浩一	会場	平澤 和哉
	会場	児島 秀樹	会場	横山 真理	会場	水田 征吾	欠席	原島 秀一
	欠席	長浜 洋二	会場	佐々木 真紀	欠席	梶井 文子	欠席	熊谷 紀良
	欠席	萩原 治	会場	高木 直				
見学	福生社協 坂本さん 東京ボラセン 山本さん みずほ社協 川上さん							
事務局	池田、浅見、鈴木							

- 1 はじめに
- ・各委員より一言
 - ・資料の確認

《報告事項》 19:30～20:00

- 2 各グループの進捗について
えんがわ文庫

資料3

【事務局】大きなトピックとしては、26名の棚主さんの本棚のシャッフルを行った。同じ場所になってしまうことも考えられたが、全員入れ替わった。そのため雰囲気も変わった。皆さんに是非見て欲しい。6月からは棚主さんが主催するイベントもはじまり、「英語絵本の読み聞かせ」と「絵本の読み聞かせ」を開催した。それぞれ9名、7名の参加があった。小さく行われたがお子さんにも楽しんでいただけた。これから少しずつ、地域に開いたイベントがはじまっていくだろう。感染状況が拡大している関係で、7月25日のイベントは中止。24日の英語絵本の読み聞かせについては、実施予定。えんがわ文庫にチラシを配架した。運営委員の皆さんからもお声掛けいただきたい。

おはなしほっとカフェ

【事務局】7月2日に実施。担当委員から報告いただきたい。

【委員】当日は大学生や大人の見学が多かった。子ども達も色々な方と触れ合い、毎回刺激があり、楽しく過ごしている。8月は平日に開催、引き続き楽しくやっていきたい。

【委員】その日より、大人が多かったり子どもが多かったり、毎回色々な形があつていい。色々な形の中で、それぞれが楽しめればいい。毎月着々と進んでいる。

【委員】初めて、お父さんの参加もあった。

【事務局】市内の大学生が実習で3名体験した。次回は8月17日10時からを予定している。

コーナーめぐり、連携

【事務局】先月担当委員からもお話いただいたが、菊野台コーナーとの連携で、「手話タイムちょうふ」という活動がある。何度か開催し評判もいい状況であるが、現在は休みのタイミングだ。開催できるようになったら、皆さんにもご報告したい。

居場所探訪

【事務局】資料3で配布している FUJIMI LOUNGE の資料を追加している。担当委員から報告をお願いしたい。

【委員】1ヵ月程前に訪問した。建築家が自分の建築事務所を作る際、2階3階は事務所、1階はカフェにして地域に開いている。趣味のコーヒーショップでなく、建築家の見識に基づいた仕掛けがある。海外の著名な学者さん呼んで講義をしたり、マルシェ（バザー）をしている。マルシェは1日に150人を集めた。現在はコロナ禍でもあり平日はカフェの来客が少ないため、金、土、日のみ開いている。運営をしているご本人に聞いたところ、「財政的に自走して欲しい」と印象的な言葉を聞いた。各「居場所」で運営形態など色々だが、財政は大きな要因だと改めて感じた。

【事務局】担当委員からは10か所回ったら中間報告という話をいただいている。

3 ちょうふチャリティーウォークについて

【事務局】担当委員から報告お願いしたい。

【委員】今年のチャリティーウォークは10月22日（土）を開催予定としている。明日2回目の実行委員会がある。運営委員やセンター長、新しい企業様も加わり、新しい形のメンバーで集まるため、楽しみだ。今回のルートは調布駅を出発し、サレジオ教会を經由して深大寺を抜け、調布ヶ丘、上布田経由の予定。過去のチャリティーウォークはスタート地点でステージを作り、催し物に参加したり飲食をしたりできた。当日は調布駅前でお祭りがあり、一緒にテントを出せることになった。ウォーキングを楽しみながらお祭りにも参加できる。それ以外の詳細についてはこれから詰めていく。ボランティア集めにご協力お願いしたい。

4 サマーボランティアについて

資料4

【事務局】活動プログラム冊子をご覧いただきたい。おかげ様で全ての活動が定員に達してきている。現在は申込をした学生に対して担当職員を中心に、ボランティア保険の加入や個別ガイダンスを行っている。実際の活動は8月の1ヵ月の中でコアタイムを迎える。本日は学生の受け入れをしていただく委員の皆さんもいらっしゃる。ご協力よろしくをお願いしたい。今年も参加する学生の振り返りに力を入れ、次に繋がっていく学生を増やしていきたい。報告を楽しみにしていただけたらと思う。

5 Mission in Chofuについて

【事務局】先月チラシをお配りした。協働推進課と市民活動支援センターと市民活動団体のWithgrowで、大学生を集め、地域課題に取り組む活動を実践するというプログラム。7月24日（日）が申込期限だが、残念ながら予定した集客に繋がっていない。力を入れて企画し、プログラムもかなり充実している。参加した学生には後悔させない。各大学に関係のある委員さんも複数いらっしゃるので、もう一声掛けていただけるとありがたい。希望があれば、8月5日（金）までは受付したい。情報をいただけると嬉しい。

6 災害ボランティア養成講座の開催について

資料5

【事務局】8月末から9月、10月にかけて4回の講座を行う。内容については資料の裏面をご覧ください。今回はペットの避難を考えるという表題。第1～3回はペットの避難の話題。現在調布市ではペット避難について具体的な計画や方策を検討中の段階で、行政も試行錯誤中。講座内容の説明(資料5)。飼い主も地域の人達も行政も含め、よりベターな策を見つけ出せるきっかけになればいい。第4回の講座は調布市の防災訓練に参加することで、市民1人1人の意識が災害時に役立つのではないか。今日の市報に掲載、明日から受付開始で20名の募集。運営委員さんを含め、ご興味のある方はご参加いただきたい。

【委員長】質問はあるか。どの報告も前回までに1度は報告があった。皆で協力していい結果に繋げていきたい。

【協議事項】20:00～21:30

7 次期運営委員の市民公募について

資料2-1

【委員長】今後の協議に繋げるため、皆さんに理解していただくことと、夏休みの宿題ということで考えていただきたい。資料を含めた説明を事務局より、お願いしたい。

【事務局】資料をご覧ください。前回も話をした。皆さんに運営委員を務めていただいているが、要綱上は1期2年間として原則3期までと書かれている。延長を妨げるものではないが、ここにいる委員の中にも3期以上の方もいる。以前委員をされていた方からは、長く委員に関わる利点もあるが、3期で代わっていくことの重要性について強く意見があった。来期を見据えたところでは、資料2-1に記載がある通り運営要綱の第8条(5)に市民公募と明記されている。現委員長も市民公募で運営委員になっていただいたお1人だ。次期運営委員を考えるときには市民公募を活用し、広く募集していくことが必要になる。公募の流れとして、あくまで案ではあるが、9月頃までに募集要綱をまとめ、10月の市報で広報し公募をかけたい。運営要綱の中では市民公募で運営委員を登用しなくてはならないと明記されているが、選び方や選抜方法に細かな決まりはない。今のタイミングで皆さんからご意見をいただき準備をしていきたい。夏休みの宿題として協議事項に提案させていただいた。

【委員長】1期2年、3期で入れ替わりが原則。受託している社協の中の運営要綱である。市民公募がないわけにはいかない。私は唯一残っている市民公募委員で、結果的に4期になってしまった。社協が次の5年を受託することがオフィシャルに決まるのはいつか？その前だと建前上おかしいので、整合性が必要だと思う。いずれにしても、市民公募をきちんとしていきたい。公募方法についてより広く、良い人材が集まるよう、色々な意見を持ち寄っていただきたい。作文のテーマ、選考の仕方など夏休みの宿題として考えてほしい。質問はあるか。

【事務局】市で随意契約が決まるタイミングはいつぐらいか？

【事務局】厳密にいうと、3月議会が終わらないと決まらない。次年度の予算要求は9～10月でスタートする。社協と契約する前提での動きとして行う。現在、市民活動支援センターの受託契約については、単年度の随意契約で動いている。基本的なラインでは社協が継続してやるという前提で物事が動いている。来年度の予算を決める段階では指示が出る。随意契約をせず、プロポーザル形式を取るのであれば、現時点で動いていないとプロポーザルができない。公に告知するための募集仕様書が作成され、募集の告知が一定期間行われる。選考の流れが今行われていないとできない。

【委員長】事業運営を受託している社協の名前で公募する形になる。適切なタイミングはそちらで図っていただきたい。それを念頭に早めにアイデアを出し、できるだけ良い人が応募してくださるような準備ができればと思う。

【事務局】予算要求と並行して進めることができるのが一番早い。

【委員長】作文のテーマ、告知の方法、選考の仕方、面接などアイデアを考えていただきたい。然るべきタイミングで、事務局から意見収集があるだろう。よろしいか。次の協議に移る。

8 えんがわフェスタ企画内容と方法の決定

資料1

【委員長】えんがわフェスタについて、事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】資料1をご覧ください。前回の委員会の中で、皆さんにグループにわかれてもらい、どういう方向でなら実施できそうかアイデア出しをしていただいた。①活動場所へ出向き、実際に体験した後、センターに戻って体験内容等をシェアする企画②センターの中で疑似体験ができるような場を作り、体験した後、シェアする企画③センターで活動者の話を聴くなど、学びや知る時間を共有した後、シェアするという3案が挙がっていた。団体の調整がどこまで出来るかによって結果、方法論が変わってくるということで、実際に当たってみようというのが先月までの話。委員会終了後、団体に打診した結果が資料1。協力をOKしてくれた団体の多くが現地での実施の場合だった。そのため、当日の協力がOKだった団体を実際回って見学するという方法が良さそうだ。

【委員】11月6日(日)がOKの団体も、コロナの影響で今後の状況が怪しいところもある。直前にキャンセルがあるかもしれない。その辺りも想定した上での計画が必要になる。最悪1つ2つキャンセルがあっても開催できる計画を組む必要がある。

【事務局】11月までは長引かないで欲しい。今程の感染者数を推移することはきっとないだろうと希望的観測のもとではあるが、リスクヘッジは必要だ。腹案や中止の判断のタイミングを議論の中で決めておくことは必要だ。訪問して周ることへのご意見はどうか。

【委員】私が周ったところは、日程の問題で訪問が難しいというところが多かった。訪問ならOKということに驚いている。歓迎してくれるのは有難いのでそれがいい。日にちが固定されているため、できなくなったときの具体的な策も考え、別プランなど(バスツアーなど)を作っておくことが大事になる。

【事務局】その他、ご意見はあるか。団体との調整の結果、11月6日にOKしてくれている団体の訪問を何グループ作るか、実際の順路、役割分担などを詰め、議論をしていきたい。あと備考欄をご覧ください。7・8・12番の団体からはパネル展示程度であれば協力できると回答があった。えんがわフェスタは1日なので、パネル展示を1日だけ行うのは勿体ない。一定期間展示してもらえれば意義はある。センターには壁面展示やえんがわギャラリーといった展示スペースがあるが、11月の秋口は毎年定例で展示している団体が多く、展示期間を設けることが難しい。過去の子ども協力隊の時はセンター入口の本棚(えんがわ文庫の反対側)辺りからパネルを吊るして紹介した。今はレイアウトが変わり、当時とは違った状況ではあるが、一定期間吊るして展示することは可能だ。展示のみ可能な団体さんの検討もしたい。

【委員】折角リストアップしたので、何かの形で紹介したい。例えばサマーボランティアの冊子のようにリストにして、調布の居場所マップのようにしたらどうか。パネルにするとバランスの問題が出てくる。手間でなければ作成したい。

【事務局】サマーボランティアのような冊子を事務局で作ることになると、難しいというのが正直なところ。事務局も関わりながら運営委員さんを中心に、フェスタまでに動いてくださる方がいれば、可能性がある。

【委員長】3案あったうち、居場所現場訪問が現実的だ。そこに参加できない方々に展示はどうかという説明があった。また、冊子の話も出た。訪問から戻って来た後、実際のアクションに繋がるような意見交換や、それに対しての情報交換など、どのように繋げていくか、残りの時間を使って議論したい。資料1のしばさき彩ステーションが検討中となっている。(日曜がお休みのため、かなり難しそうだが)サポーターさんにも相談してみるとのことだ。

【事務局】資料1で、コースをざっくりとイメージすると仙川、富士見町界限で複数の協力がある。そこを2グループにわけて回ったとすると3コース設定ができる。各グループ3か所くらいを回る。実際にどう回るかはこれから詰めていく。昼を挟みながら動いていくと、大体2時位までにここに帰ってくるようなスケジュールが組めるのではないか。その後2時から4時にはばたきで意見交換する予定で設定している。訪問にあたっては、各グループに委員が入り、役割分担をする。引率者などを今日の議論で決めて行きたい。居場所を作りたい人に参加告知をした際、実際に見て周ってきた後にどういう議論をすべきなのか、誰にファシリテーションしてもらう必要があるのかというところで資料を作成した。訪問から戻ってきた後に、ディスカッションなのか意見出しなのかを議論したい。

【委員長】覚證寺は、法事都合により午後なら可だ。富士見町界限に行くのであれば、覚證寺は是非とも訪問してほしい。場所によって多少スタートが変わることもあるだろうが、戻ってきて2時から4時に意見交換するという時間設定になっていることはご理解いただきたい。

【委員】戻って来てからの進行イメージは、正直あまりできていない。まずは、気づきや感じたことを素直にシェアしてもらうことからスタート。その先は具体的にイメージできていない。単なる見学ではなく次に繋がるような人を集められるよう、募集の仕掛けをしていく必要がある。

【委員長】コースのことも大事だが、その後が大事だ。各グループの人数は。

【事務局】6から最大多くても10名くらい。3グループに分け、30名くらいの参加を考えている。

【委員長】30名をどのようなグループにするか。

【委員】テーマの目的をもう一度掘り起こして成果に繋げていきたい。

【委員】今回は居場所を作りたいと考えている方々が対象だったと思う。その方達が居場所に行くことによって、イメージが膨らむ。回り方もあるが、テーマ別に分けてグループを作り、戻った後はそのグループで話し合ってもいいかと思う。話す内容としては、実際訪問してどういう運営をされていたのか、掘り下げればお金の話までできるといい。私の団体は調布市から委託を受けてお金が出ている。補助金、助成金で運営されている団体もある。物を販売して資金にしている団体もある。助成金の紹介や調布市が行っている空き家の活用などの紹介もあるといい。市の空き家担当に来てもらうのはどうか。

【委員長】具体的だ。コースはテーマ別ということか。

【委員】これから募集が始まるが、私たちが狙っている人達が来るかはわからない。居場所を作りたい人ばかりが来るとも限らない。幅を持っておく必要がある。帰ってきてからのこととは異なるが、えんがわフェスタまでに委員会はあと2回しかない。時間が迫っている。委員だけで周るならば2回で十分だが、募集や冊子作成などの時間を考えると、9月に募集したい。その時には参加して何を見るのか、具体的に3つのコースのどこを巡るのか決めておく必要がある。担当や交通手段、昼休憩など決めておく時

期ではないか。とても心配だ。まずはコースごとに、どこを巡るのかを落とし込んだほうがいい。コースが出せるカラーも決まってくる。

【委員長】チームに分けて、それぞれでやってもらう。どう周るのが一番効果的かはチームに任せる。ただ、全体のことが決まっていないと周るだけで終わってしまう。今日しかない。きちんとした積み上げが非常に甘い。色々な人が来るが、ターゲットは決めている。戻ってきた後のセッションを今日決めておきたいのが今日一番の主眼だ。

【委員】チームは決まっているのか。

【委員長】まだ決まっていない。地元の方が調整しやすいが、地元のしがらみもある。戻って来て、お互いの気づきについてセッションを設けるという話も出ている。先程意見が出たのは、関心がある分野別に分けて周り、そのチームで話をするのが1つの案だが、その他の意見はどうか。

【委員】今迄の話を聞いて、いくつか思うことがある。対象者に呼びかける時に、作ろうとする方限定にしない方がいい。居場所を周って見て、熱意のあるボランティアを持つことが大事だと感じた。何かできるだろうかと思っている潜在力のある方も多い。だから、作りたい人と限定しないで、緩やかに募集するほうがいい。訪問先のお寺では当日午前には法事が入っている。1時から訪問するというイメージか？

【事務局】予定としては、そのような形だ。

【委員】私の思いとして30分～1時間の訪問では、時間がきついのではないかと思う。そのようにするのであれば、2時30分に全体会議を始めるというのはどうか。というのも、話が長くなってしまう可能性があるからだ。私が伺った際も1時間かかった。複数人数での訪問だともっと長くなるだろう。全体会議のシェアについては、幾つかの設問を設けたら感想や気づきが出てくるのではないか。実際にやりたい方が手を挙げれば、第2段として居場所の作り方セミナーなどを開催したらどうか。

【委員長】1つのアイデアを出していただいた。センターへ戻ってくる時間さえ統一しておけば、チームに任せて問題ない。2時若しくは2時半の設定でよいと思う。テーマ別で深めるというパターンもあれば、ターゲットを幅広くして見たことを共有するなどもある。

【委員】アイデアだが、午前中訪問、午後に訪問した方へ感謝のプレゼントを皆で作る。プレゼントの中に今出たような思いや決意を含んだものを作り、作りながら学んだことを振り返る。作り上げたプレゼントを紹介する。アウトプットすることで、団体も時間を作って良かったと思えるのではないか。フェスタらしいのをイメージした。

【委員】お礼の手紙はどうか。

【委員】あえてプレゼントを作りながら、その日の振り返りを学ぶのはどうか。アウトプットもできる。参加者も幅広くなるし、楽しみもできる。

【委員長】とても面白い。訪問での気づきを他のグループの参加者とシェアし合うのではなく、同じグループの中で話し合い、訪問先にフィードバックする（お礼する）形か。

【委員】アクティビティを通して、市民活動らしいわくわく感のあるものを作れたら嬉しい。

【委員長】先程出たアイデアに似た部分がある。別々のグループ間の交流はないが、プレゼント作りを取り入れたワークショップで終わりを上手くまとめ、発表や共有で最後に一体感を作るというのは面白い。

【委員】見学だけで終わりではなく、参加した1人1人が次に自分が何を始められるのか宣言を書いて、「私は〇〇します」というような意気込みを届ける。書いた本人も自分は次に何をしようかとしっ

かり考えられる。自分は手紙をどこに届けたいのかなど、有ってもよいかと思う。次のステップを自分で宣言するのは1つなのかと思う。

【委員】シェアをした上でグループワークをする。こんな場所を作ってみたいなど意見交換で盛り上げ、現実的な話はこれからの会議でというのはどうか。そのような形で次に繋げ、「こんな場所を作りたいよね」と語りあえるのが楽しい。

【委員長】その他の意見はどうか。

【委員】皆さんの意見が素敵だ。カテゴリーごとに募集をかけてチームで訪問し、一緒に作り上げられる人が見つかったら素敵だ。私も1人ではできないと感じている。同じ興味を持った者同士が集まって話をしていく。例えば子ども食堂をやりたい人だったら、子ども食堂だけ訪問し、先程話が出たように、午後はお礼の手紙を書くなど、最初からカテゴリー別でやったらよいのではないか。

【委員長】だいぶ、そのような雰囲気になってきた。他はどうか。

【委員】はじめは地域で回るという話だったが、子ども食堂にターゲット持っている場合には子ども食堂の種類を見たいのかと思う。近い距離のコースではなく、参加したい種類で分ける方がいい。自分の興味のあるところだけでも良いのではと思う。これから運営をしていきたい方か運営まではいかないが、ボランティアとして関わりたいと思っている人がいる。色々なレベルがあるが、限定しなくてもいい。移動中も話をして仲間ができる。同じものを見て深める。話を聞いて、見て、返すことによって、両者によい影響があるのでは。皆さんの話を聞いて、私の中では発見に繋がった。

【委員長】夏休み前で、とても大事な会議だ。あと20分延長してよいか。皆さんから出たように、カテゴリーごとでコースを作るといった形で、チームに任せる。カテゴリーを幾つ作るか。戻ってきた後は同じコースの参加者で議論やシェアリングを行い、それをアウトプットしていくときに訪問先へのプレゼントの一部として、こんな場所を作ってみたいという感謝の気持ちを伝えられるようにする。その後、参加者全体で共有しまとめていく。このような形でよいか。

【委員】気になったのは、このリストが綺麗に分野ごとにわかるかどうか。

【委員長】わからない。チームで話をしたほうはよい。理想的な案を作るのはチームに任せる。子育てに関するチーム、青少年のチーム、高齢者に関するチーム。

【委員】コーナーもあるが。

【委員】どなたでもOKの団体もあるが。

【委員長】今日、チームは決めたい。

【委員】三つ目のチームを多世代交流はどうか。

【委員長】多世代交流、子ども、青少年の3チームで。本日欠席している委員については、事務局で調整願いたい。

【事務局】今日の議事については、欠席の委員に情報共有をする。その上で8月初旬までに、希望のグループを確認し、各グループでの議論をお願いしたい。

【委員長】グループの確認は今月中にしてほしい。

【事務局】承知した、グループの確認は早々に行う。

【事務局】広報のタイムリミットは9月5日だ。10月5日に市報が出て、募集期間が約2週間として、10月20日まで。そこから11月6日までの16日間で最後の詰めが必要になることを考えると、コースの確定を9月5日の市報原稿の締切までに入れなくてはいけないため、かなり厳しい。

【委員長】スタートと終わりはセンターで決め、その枠の中で各コース設計をする。お盆前にはあらかじめ見えてくるので、広報を間に合わせることができる。意見を出していただいたおかげで、チームが動きやすくなった。フェスタに向け、今後も協力をお願いしたい。

★協議結果

えんがわフェスタについて

活動場所へ出向き、実際に体験した後、センターでシェアする企画で開催する
様々なアイデアが出たが、最終的には、周りやすい地域ごとにグループ化するのではなく、以下3つのテーマでグループ化し、見学から気づきのシェア、まとめまで、をグループ毎に実施することになった。

グループ1…子育てグループ

グループ2…青少年グループ

グループ3…多世代グループ

理想的な案を作るのはチームに任せる。

【その他】21:30～21:35

資料6

9 今後の運営委員会スケジュール予定

【事務局】8月は運営委員会は休み。センター行事として、おはなしほっとカフェ、Mission in Chofu。9月はえんがわフェスタの進捗状況の確認、次期運営中長期運営方針の確認がはじまる。

次回運営委員会

令和4年9月14日（水）19時～ @市民活動支援センター「はばたき」